LIXIL

電動ラングベール

取付説明書

- ●このたびは、当社製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
- ●この取付説明書に示した表示記号の内容は、製品を安全に正しく施工していただき、施主様等の危害や損害を未然に防止するためのものです。

表示記号の内容を良く理解したうえで、本書の内容(指示)にしたがってください。

●この取付説明書では、次のような記号を使用しています。

安全に関する記号 記号の意味

♠ 警告

●取扱いを誤った場合に使用者が死亡または重傷を負うおそれのある内容を示します。

⚠注意

●取扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負うおそれのある内容、または物的損害の おそれがある内容を示します。

一般情報に関する記号

お願い

- ●取付手順で、特に注意して作業をしていただきたいことを示しています。
- ●守っていただかないと組付けができない内容、または製品全体に後々不具合が発生するおそれのある内容を示しています。
- **※**
- ●取付説明の内容全体(個々の説明枠)にかかる注意事項を示しています。
- ●取付説明の内容に制限がある場合の条件を示しています。

/ / 補足

●説明の内容で知っておくと便利なことを示しています。

※製品破損、倒壊による人への危害・物的損害が想定されますので、下記事項をお守りください。 <施工の前に>

♠警告

●門扉は人や車の出入りする場所に設置するものです。使用用途・目的を踏まえた上で必ず安全な場所に設置してください。特に開閉時の扉が公道(道路面)に飛び出さないようにしてください。重大な事故につながるおそれがあります。

⚠注意

- ●製品の施工には、危険を伴う場合がありますので、必ず専門の工事業者による施工をお願いします。工事業者以外が施工すると、誤った施工を行い、商品が正しく稼働しないおそれがあります。
- ●ラングベールの基礎は、「ラングベール 一電動基礎施工一(D475)」の取付説明書で施工してください。取付説明書を確認せずに施工すると、正しく組み付かず、不具合が発生するおそれがあります。
- ●ラングベール施工床面は、コンクリート厚さが「ラングベール 一電動基礎施工ー(D475)」の取付説明書に記載している寸法以上あることをあらかじめ確認してください。記載寸法以下の場合アンカー用下穴が基礎を貫通したり、引戸本体取付強度低下の原因になります。

お願い

- ●正しく施工、組付けをするために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
- ●製品の施工については、必ず取付説明書にしたがってください。
- ●施工終了後、取扱説明書は施主様にお渡しください。
- ■電動装置施工の際、下記工具が必要となりますので予めご用意ください。
 - φ3.5下穴用電動ドリル

■電気配線工事について

●配線柱内部のCD管には、呼び16 (内径φ16、外径φ22) を使用しています。家側からの配管は、PF管呼び16を使用してください。

<施工上のご注意>

⚠注意

- ●扉走行床面は水平に仕上げてください。勾配があると、製品が水平に稼働せず、過負荷検知による不具合が発生するお それがあります。
- ●電装商品の場合は配線工事を有資格者の専門業者にご依頼ください。ケガや事故の原因となります。
- ●施工終了後は扉の開閉チェックを行ない、不具合がないか確認してください。
- ●製品破損による人への被害、物的損害が想定されますので、下記事項をお守りください。
 - ・ボルト・ネジは弊社純正品の規定本数を使い、下記締付けトルクで固定した後に、緩みがない事を確認してください。
 - ・ボルト・ネジは締付けすぎない(被結合部材の破損、ねじが塑性伸びを起こさない状態)ようにしてください。

タップ側材質		
鋼材	アルミ	
1 EN	1 N I ma	
III·NIC. I	1N·m	
5.2N·m	2.6N·m	
5N·m	2.5N·m	
25N·m	12.5N·m	
_	15N·m	
42.5N·m	_	
	鋼材 1.5N·m 5.2N·m 5N·m 25N·m —	

お願い

- ●施工工事にあたっては、安全に施工を行なってください。
 - ・作業服および保護具(保護帽、安全帯、眼、手、足の保護具)を正しく使用してください。
 - ・作業場所の整理整頓を行なうとともに、安全確保を行なってください。 特に高所作業での安全確保、倒壊防止、照明による照度の確保など。
 - ・器具、工具、保護具などの機能を確認し、使用してください。
 - ・作業は、相互の作業と各作業工程を考慮して進めてください。免許、技能講習、特別教育が必要な作業は、有資格者 が行なってください。
 - ・作業者が相互に安全確認を行なってください。健康状態を十分に確認し、健康管理を実施してください。
 - ・万が一、事故が発生した際には、直ちに手当を行ない、救助を第一に心がけてください。

■梱包明細表

【1】本体セット

名称	略図	員 片引き	数両引き
本体 掛		1	1
本体 受		_	1

【2】戸当り柱セット

名 称	略図	員 数			
戸当り柱	(HIST)	1			
センサーフード		2			
【2-1】M4×10トラスネジ		8			

【3】ベースローラーセット

名 称	略図	員 数
ベースローラー		1

【4】電動柱セット

【4】 電動柱セット			米占
名 称	略図	員 片引き	数両引き
電動柱		1	2
埋設ケーブルカバー		1	2
電動柱固定アングル		1	2
柱固定アングル (スイッチカバー、六角棒レンチ付き)		1	2
駆動BOX取付ブラケット	0	1	2
リモコン送信機	2000	1	2
マグネットスイッチ	action of the second of the se	2	4
配線取入口力バー		1	2
【4-1】M5×10座金組込 ナベ小ネジ (PW+SW)		4	8
【4-2】M4×12トラスタッピンネジ		8	16
【4-3】M8×20座金組込 六角ボルト(PW+SW)		8	16
【4-4】M8×15座金組込 六角ボルト(PW+SW)		6	12
【4-5】M6×15座金組込 六角ボルト (PW+SW)		2	4

【5】センサー柱セット

		- *L	
名 称	略図	員	数
-10		片引き	両引き
センサー柱		2	4
センサーフード		2	4
センサー柱キャップ		2	4
進入防止柱		1	2
【5-1】 φ4×10トラスネジ	()mm	12	24

【6】ケーブルセット

名 称	略	図	員 数	
10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 1			片引き	両引き
センサーケーブル			2	2
連結ケーブル			_	1

【7】部品セット

名 称	略図	員 片引き	数両引き
クッションA		1	2
クッションB		1	2
ガイドローラーブラケット		1	2
ベース端部キャップR		2	4
ベース端部キャップL		2	4
落し棒セット		1	2
落し棒受けパイプ		1	2
戸車	6	2	4
戸車枠		1	2
後部戸車枠	0	2	4
ローラーガイドキャップR		1	2
ローラーガイドキャップL		1	2
ガイドローラー		1	2
片引き用受け台座		1	_
両引き用戸車ガイド		_	1

【7】部品セット(つづき)

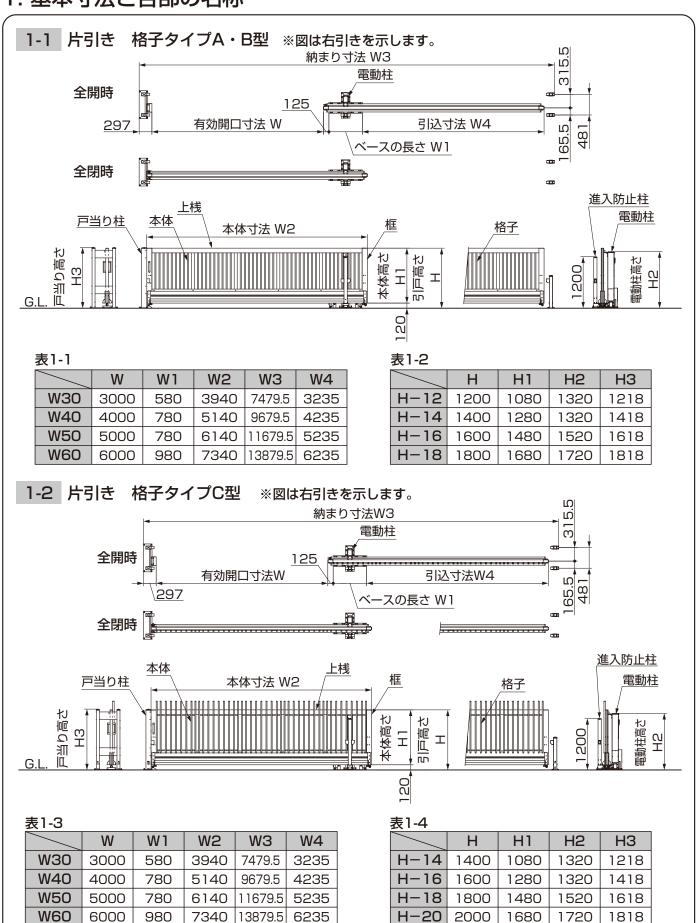
7 apan e 9 F () J e)		員	数
名 称	略図		両引き
レベル調整板		12	8
【7-1】M4×10ナベ小ネジ	(+)))))))	1	2
【7-2】 φ4×10トラスネジ		2	4
【7-3】 φ4×10 トラスタッピンンネジ2種		4	8
【7-4】M6×35ナベ小ネジ	(+))))))))))	1	2
【7-5】M6×50ナベ小ネジ	(+)))))))))))	1	2
【7-6】M6×10サラ小ネジ	(X))))))	7	14
【7-7】M6×40サラ小ネジ	(X)))))))))	3	6
【7-8】M6×16座金組込 ナベ小ネジ (PW+SW)	(I)))))))	2	_
【7-9】M6×16六角ボルト		2	4
【7-10】M6バネ座金	©	3	6
【7-11】M6×16座金組込 六角ボルト(PW+SW)		4	8
【7-12】M8×18座金組込 六角ボルト(PW+SW)		2	4
【7-13】M8×25六角ボルト		4	8
【7-14】M8×45六角ボルト		2	4
【7-15】M8六角ナット3種	®	2	4
【7-16】M8平座金	0	4	8
【7-17】M8バネ座金	©	4	8
【7-18】M8×20六角ボルト		2	4
【7-19】M8バネ座金	G	2	4
【7-20】M12本体打込み式アンカー	0	_	4
【7-21】M12×35六角ボルト		_	4
【7-22】M12バネ座金	©	_	4
【7-23】M12平座金	0	_	4
【7-24】M10バネ座金	©	1	2
【7-25】M10×35六角ボルト		1	2
取付説明書 (D472)	_	1	1
取扱説明書 (UD099)	_	1	1

【8】リモコン送信器セット

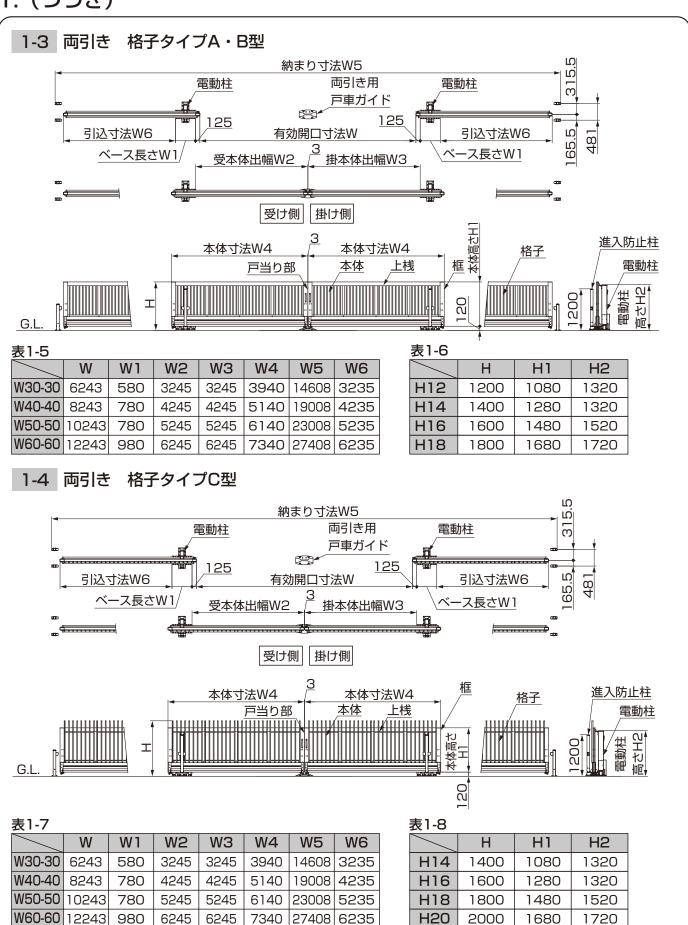
オプション

名	哈 凶	貝釵
リモコン送信器		1
取扱説明書	_	1
保証書	_	1

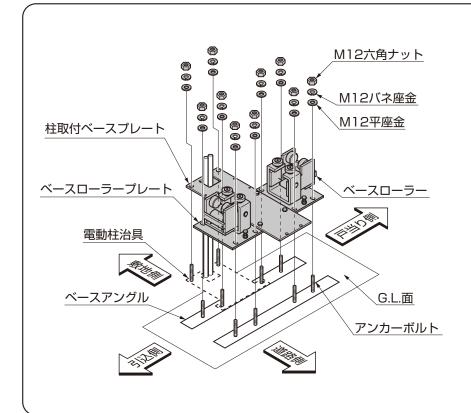
1. 基本寸法と各部の名称



1. (つづき)



2. ベースローラーの取付け

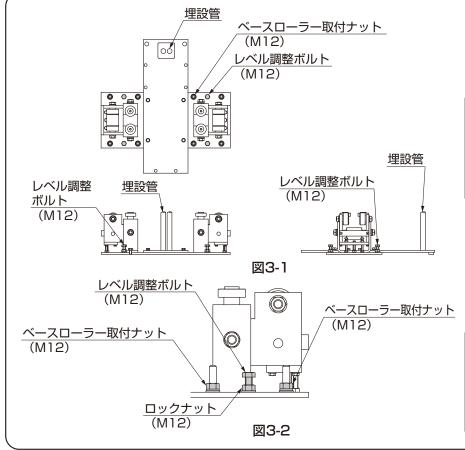


- ①施工済みのベースアングルと電動柱治 具にあらかじめ付いている「M12六角 ナット」、「M12バネ座金」、「M12平 座金」を外して、ベースローラーをア ンカーボルトに差込んでください。
- ②図のようにベースローラーを再度 「M12六角ナット」、「M12バネ座 金」、「M12平座金」を使用して取付け てください。

お願い

- ●基礎施工の時に取付けた「電動柱 治具」を取外したあとに、ベース プレートを設置してください。
- ●ベースローラー全体の水平が出て いない場合は、「3. ベースローラー のレベル調整」を参照してください。
- ●柱取付ベースプレートの配管立上り 側とG.L.の間にすき間がある場合は レベル調整板を入れてください。

3. ベースローラーのレベル調整 ※ベースローラーを取付けた状態でレベルを調整する作業です。



①一番高いところを基点にして、他の7 箇所の「ベースローラー取付ナット」 を緩めてください。(図3-1参照)

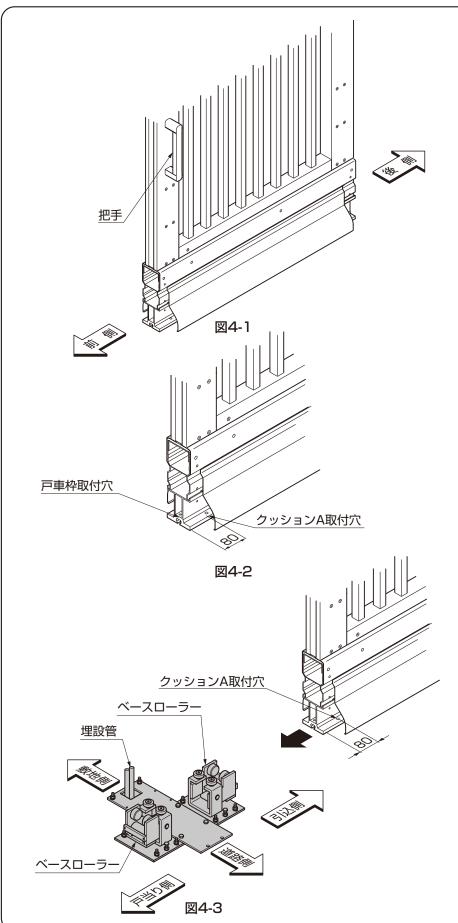
お願い

- ●高さが低い場所の「レベル調整ボルト」を固定している「ロックナット」を緩めて、「レベル調整ボルト」を締め込むとレベルが上がります。(図3-2参照)
- ②全体の水平を出した後で、「ベースローラー取付ナット」と「ロックナット」 を確実に締めて固定してください。 (図3-2参照)

⚠ 注意

●「ベースローラー取付ナット」と 「ロックナット」が緩んだ状態で本 体パネルを開閉しないでください。 本体パネルが転倒・破損して事故に つながるおそれがあります。

4. 本体の挿入



∅ 補足

- ●本体に把手がついている方が前側です。(図4-1参照)
- ①本体前側からベースローラーに挿入してください。(図4-3参照)

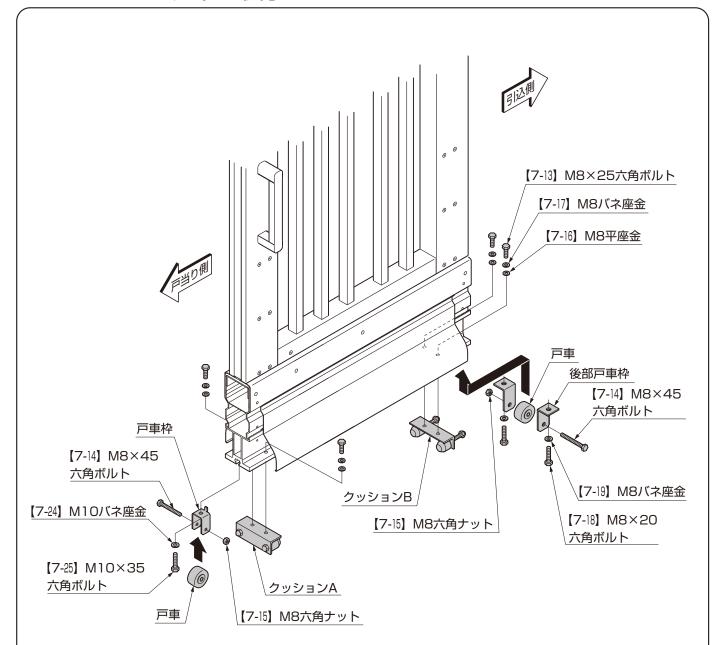
お願い

●本体挿入時に、ベースローラーを 破損しないように静かに挿入して ください。

/ 補足

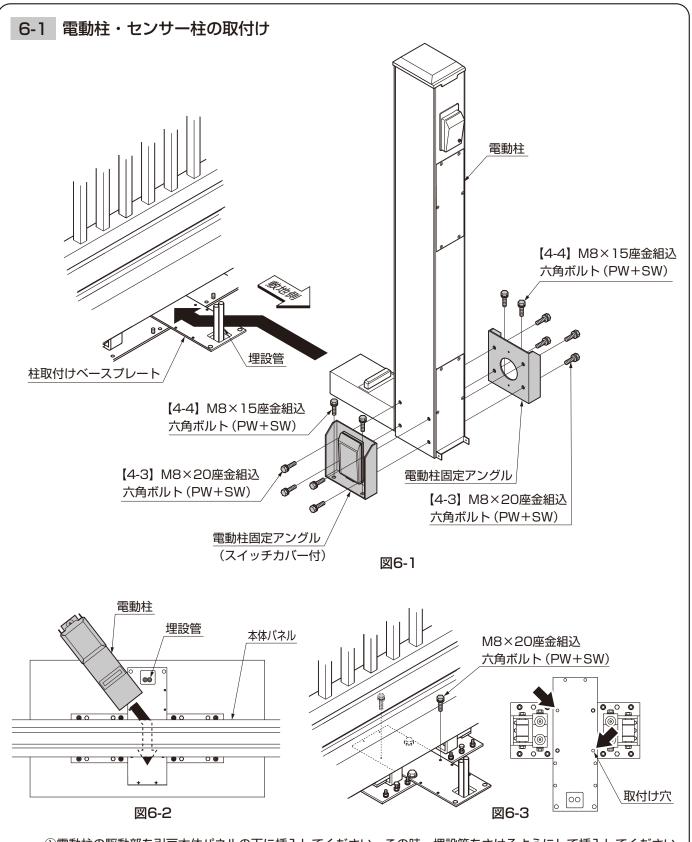
- ●本体は戸当り側・引込側のどちらからでも挿入できます。作業のし やすい方向から挿入してください。
- ●図は、右開き仕様の引込側から入れた場合です。

5. クッション・戸車の取付け

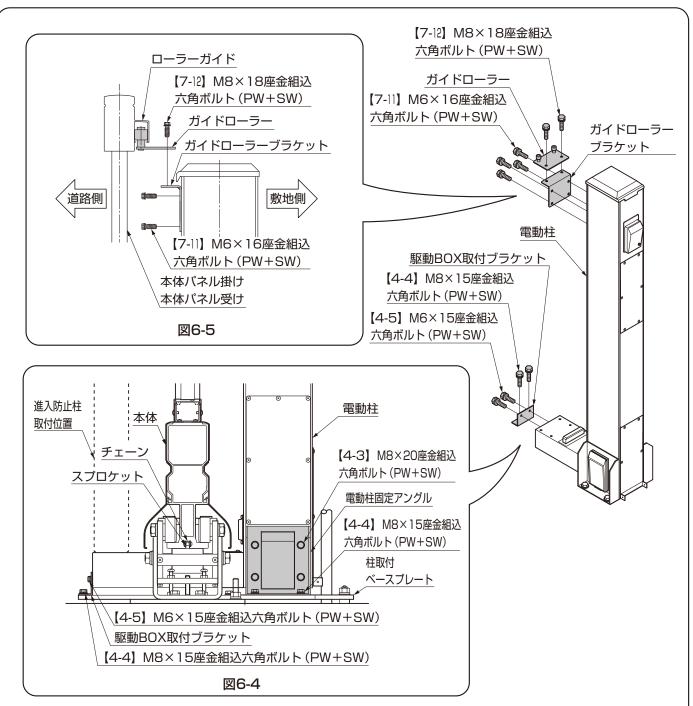


- ①クッションAを戸当り側、クッションBを引込側にそれぞれ【7-13】、【7-17】、【7-16】で取付けてください。
- ②戸当り側に戸車枠上部のツメを本体ベース下面の溝に入れて、【7-24】、【7-25】で取付けてください。 引込側本体ベースの下面に後部戸車枠を【7-18】、【7-19】で取付けてください。
- ③戸車を戸車枠と後部戸車枠それぞれの間に入れて【7-14】、【7-15】で取付けてください。

6. 電動柱・センサー柱の取付け



- ①電動柱の駆動部を引戸本体パネルの下に挿入してください。この時、埋設管をさけるようにして挿入してください。
- ②電動柱に電動柱固定アングル、電動柱固定アングル (スイッチカバー付)を【4-3】で取付けてください。
- ③電動柱を挿入後、柱取付けベースプレートとベースローラーを 「M8×20座金組込六角ボルト (PW+SW)」で取付けてください。(図6-3参照)(ボルトはプレートにテープ止めしてあります。)



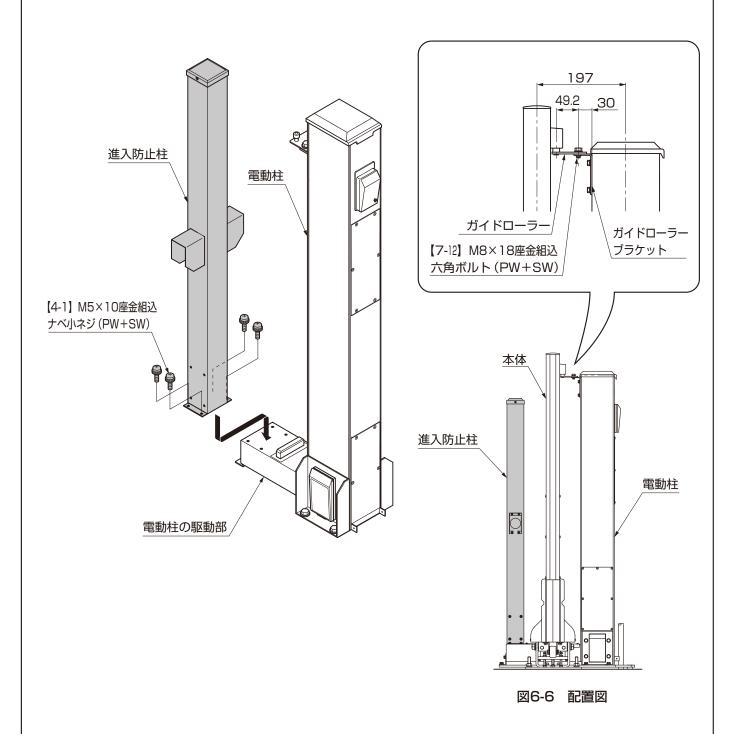
- ④電動柱を駆動BOX取付ブラケットと電動柱固定アングルを使って、柱取付けベースプレートに【4-4】、【4-5】、【4-3】で取付けてください。電動柱は垂直に取付け、スプロケットとチェーンが確実にかみ合っているか確認してください。(図6-4参照)
- ⑤電動柱にガイドローラーブラケットを【7-11】で取付けてください。
- ⑥本体のローラーガイドにガイドローラーを通して、ガイドローラーブラケットに【7-12】で仮止めしてください。 (図6-5参照)
- ②本体パネルの垂直を確認して、垂直になっている場合は仮止めした【7-12】を固定してください。

お願い

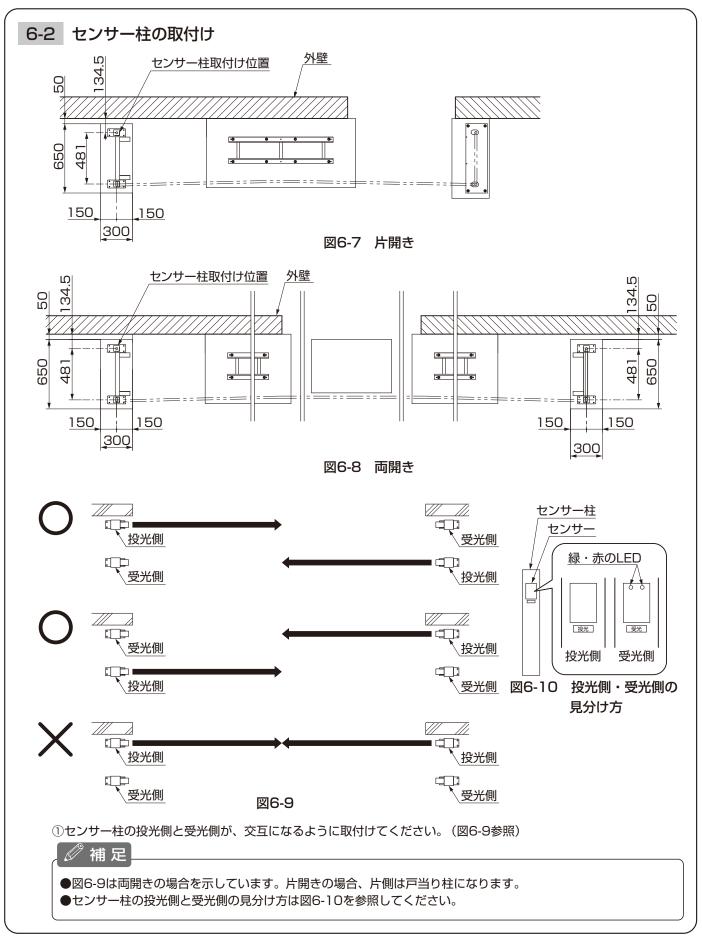
●本体パネルが垂直になっていない場合は、仮止めした【7-12】を緩めて本体パネルが垂直になる位置で【7-12】 を締め直してください。

6. (つづき)

6-1 つづき

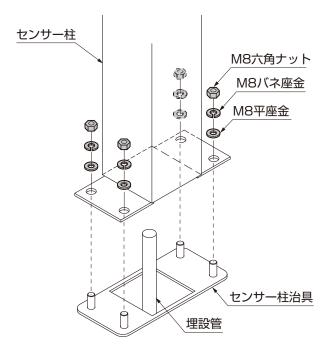


⑤進入防止柱を電動柱の駆動部に【4-1】で取付けてください。



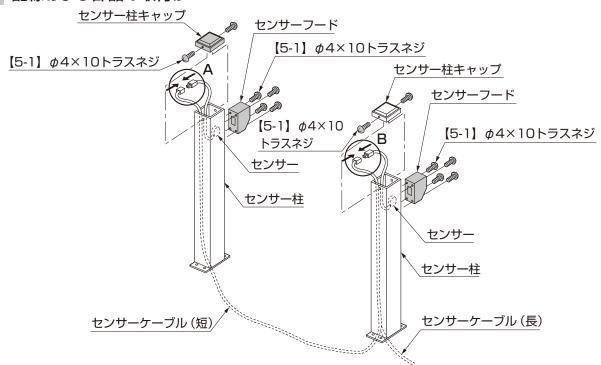
6. (つづき)

6-2 つづき



②あらかじめ、センサー柱治具に取付いている、M8六角ナット、M8バネ座金、M8平座金でセンサー柱を固定してください。

6-3 配線および部品の取付け

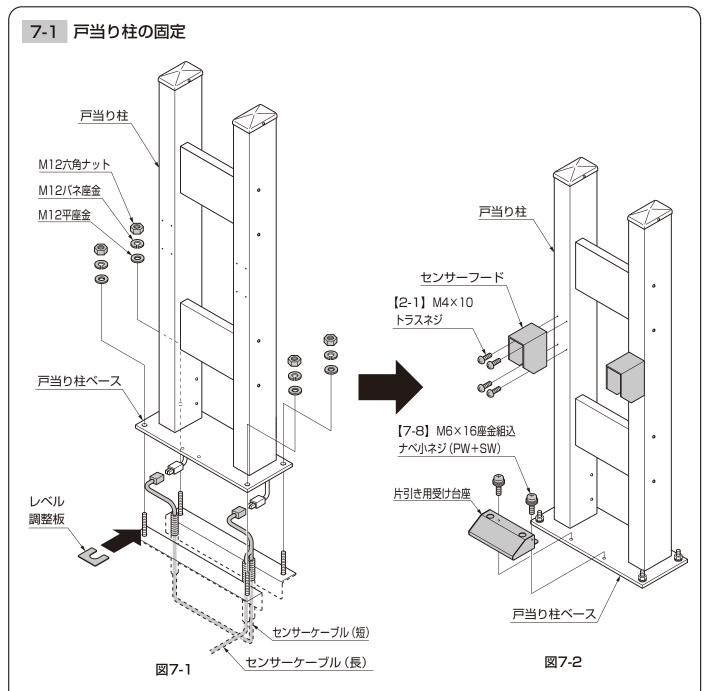


- ①センサーフードを【5-1】で取付けてください。
- ②センサー柱キャップを【5-1】で取付けてください。

お願い

●コネクターを必ず接続してください。接続したコネクターとコードを柱内部に納めてください。この時コネクターおよびコードは、センサーの後部に納めてください。(A・B部参照)

7. 戸当り柱の取付け ※片引きの作業です。



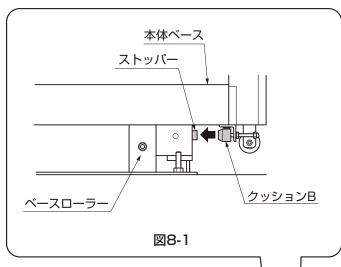
- ①戸当り柱下面で付属の連結ケーブルと戸当り柱のセンサーコネクタを接続してください。
- ②施工済みの戸当り柱治具にあらかじめ付いている「M12六角ナット」と「M12バネ座金」、「M12平座金」を外して、 戸当り柱を取付けて固定してください。
- ③戸当り柱ベースに片引き用受け台座を【7-8】で取付けてください。
- ④センサーフードを戸当り柱に【2-1】で取付けてください。
- ⑤戸当り柱が垂直に立っていることを確認してください。

お願い

- ●あらかじめ付属の連結ケーブルを埋設管に通しておいてください。
- ●戸当り柱設置の際には基礎施工時に取付けた「戸当り柱治具プレート」を外した後、戸当り柱を取付けてください。
- ●垂直に立っていない場合は、戸当り柱ベースの下にレベル調整板を入れて垂直を出してください。

8. 片引き本体の調整

8-1 クッションB調整



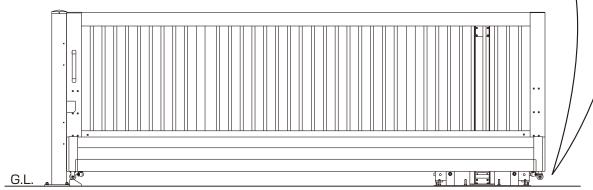
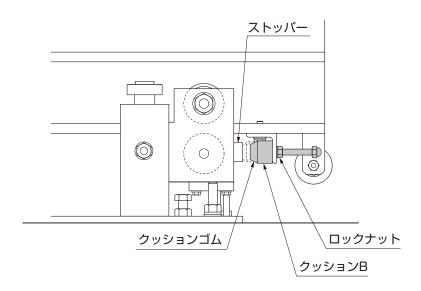


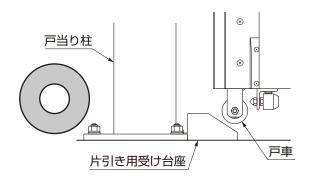
図8-2

①本体を閉めた状態でクッションBがストッパーに当るまでいっぱいに引き出してください。



- ②ロックナットを緩めて2つのクッションゴムが均等にストッパーに当るように、クッションゴムを回して調整してください。
- ③調整後、ロックナットを締めて固定してください。

8-2 本体ベースのレベル調整 ※図の高さに戸車がくるように、本体ベースのレベル調整を行なう作業です。



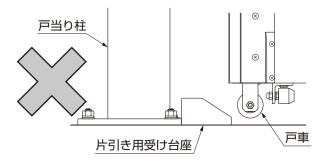


図8-3

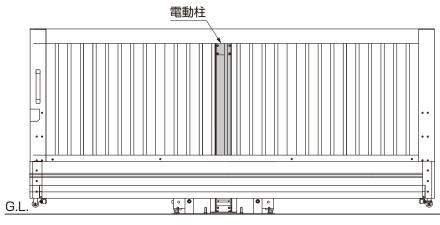
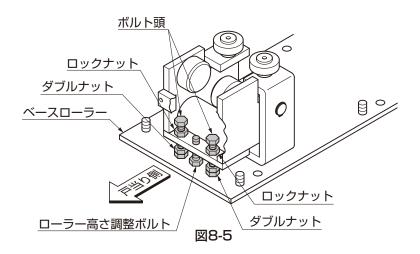


図8-4



①戸車が片引き用受け台座の傾斜面に接 していることを確認してください。 (図8-3参照)

お願い

- ●戸車が片引き用受け台座の傾斜面 に接しない場合は、本体ベースを 電動柱に対して中央になるように 戻してください。電動柱に対して、 中央に戻さないと調整ができませ ん。(図8-4参照)
- ②ベースローラー戸当り側のロックナットを緩めてください。(図8-5参照)

お願い

- ●ボルト頭、ダブルナットは緩めないでください。調整できなくなります。
- ③ベースローラーの高さ調節ボルトを回して、本体ベースの高さを調整してください。(図8-5参照)

// 補足

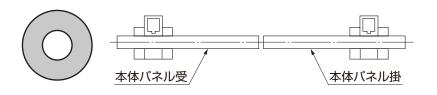
- ●時計方向に回すと上がり、反時計 方向に回すと下がります。
- ●ローラー高さ調整ボルト1回転で、 本体ベースの先端高さが約10mm 変わります。
- ④本体ベースを元に戻して、片引き用受け台座が傾斜面に接する高さになっていることを確認してください。 (図8-3参照)
- ⑤本体ベースを再びガイド柱中央に戻してから、ロックナットを左右均等に確実に締めて固定してください。

グ補足

●原則として高さ調整は、戸当り側のローラー高さ調整ボルトで行なってください。戸当り側だけでは調整できない場合は、引き込み側も使って調整してください。

9. 両引き本体の調整

9-1 本体パネルの通り調整



本体パネル受本体パネル掛

①本体パネル掛と本体パネル受の通りが 一直線になっていることを確認してく ださい。(図9-1参照)

お願い

●通りが出ていない場合は、「ベースローラー取付ナット」を緩めて調整してください。(「3.ベースローラーのレベル調整」の図3-1、図3-2参照)

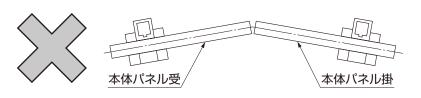
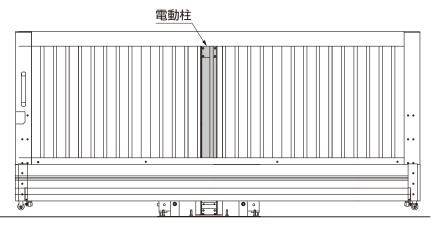


図9-1



- ②調整を行なう側の本体ベースを電動柱 に対して中央になるように戻してくだ さい。(図9-2参照)
- ③「ベースローラー取付ナット」を緩めて、ベースローラーの取付位置を本体パネルの通りが一直線になるように調整してください。
- ④緩めた「ベースローラー取付ナット」 を確実に締めて固定してください。

⚠注意

●「ベースローラー取付ナット」が緩んだ状態で本体パネルを開閉しないでください。本体パネルが転倒・破損して事故につながるおそれがあります。

図9-2

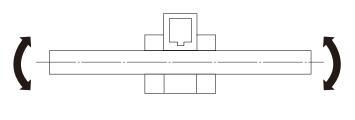
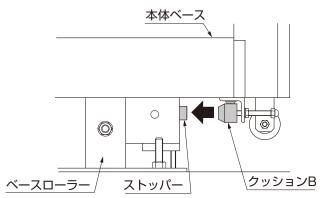
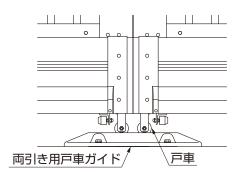


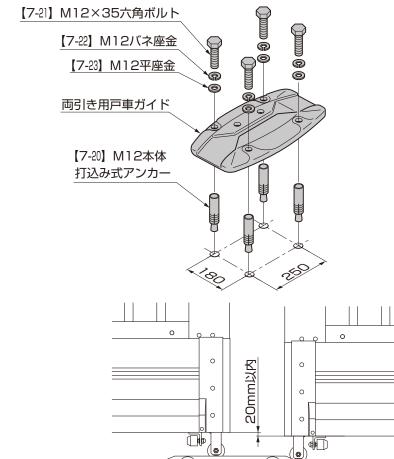
図9-3

9-2 本体パネル受け側の調整



9-3 両引き用戸車ガイドの取付け





- ①本体パネル受け側を、クッションBが ストッパーに当たるまでいっぱいに引 き出してください。
- ②本体パネルが垂直に立っていることを 確認してください。

お願い

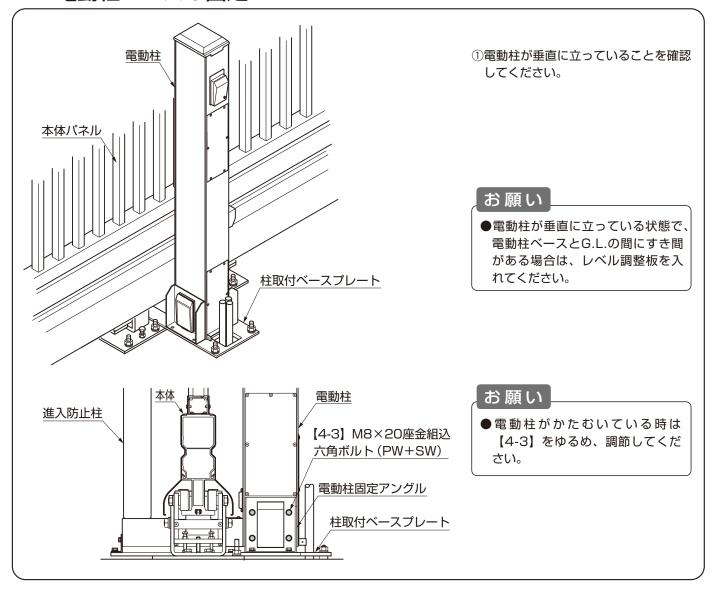
- 垂 直 に なっていない場合は、 「8-2 本体ベースのレベル調整」 の②、③、④の作業を行なって垂直 を出してください。
- ●クッションBの調整は、「8-1 クッションB調整」を参照してください。
- ①両引き用戸車ガイドを開口中央に仮置 きしてください。
- ②本体ベース掛けと本体ベース受けを引き出して戸車がガイドに納まる位置に 両引き用戸車ガイドの位置を調整して ください。
- ③調整が終わったら両引き用戸車ガイド の穴位置にコンクリートドリルで穴を あけて【7-20】、【7-21】、【7-22】、【7-23】 で取付けてください。

- ④本体ベースを両引き用戸車ガイド付近 まで引き出してください。
- ⑤戸車が両引き用戸車ガイドの傾斜部分 に接していることを確認してください。

お願い

●高さが合っていない場合は、「8-2本体ベースのレベル調整」の②、③、 ④の作業を行なって高さを調節してください。

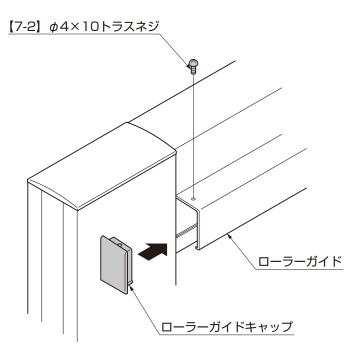
10. 電動柱ベースの固定



メモ			

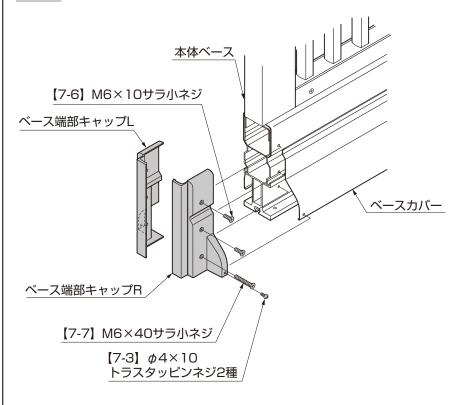
11. キャップ類と落し棒の取付け

11-1 ローラーガイドキャップの取付け



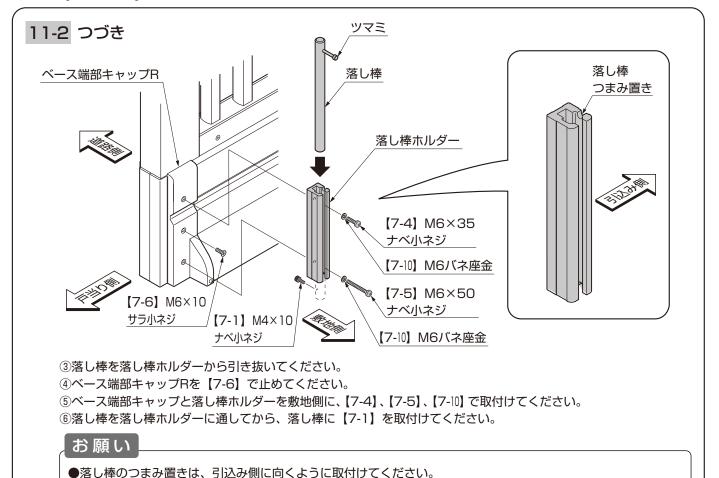
①ローラーガイドの両端に、ローラーガイドキャップを【7-2】で取付けてください。

11-2 ベース端部キャップと落し棒の取付け

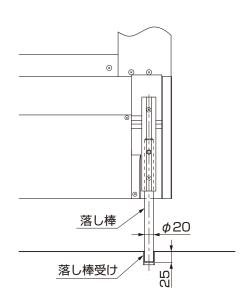


- ①本体ベースの両端に、ベース端部キャップRとベース端部キャップLを 【7-6】、【7-7】で取付けてください。
- ②ベースカバーをベース端部キャップに 【7-3】で固定してください。

11. (つづき)



12. 落し棒受けの取付け

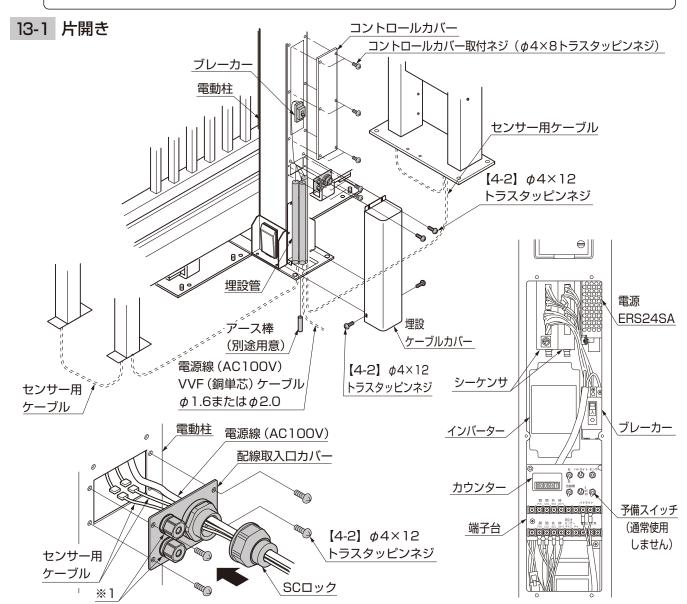


①落し棒受けは、ラングベールを開けた状態の時、落し棒が落し棒受けに入る位置に各々埋込んでください。

13. 電動柱の配線方法

⚠注意

●電源線の施工、第3種接地工事は電気工事の有資格者に依頼してください。ケガや事故の原因となります。

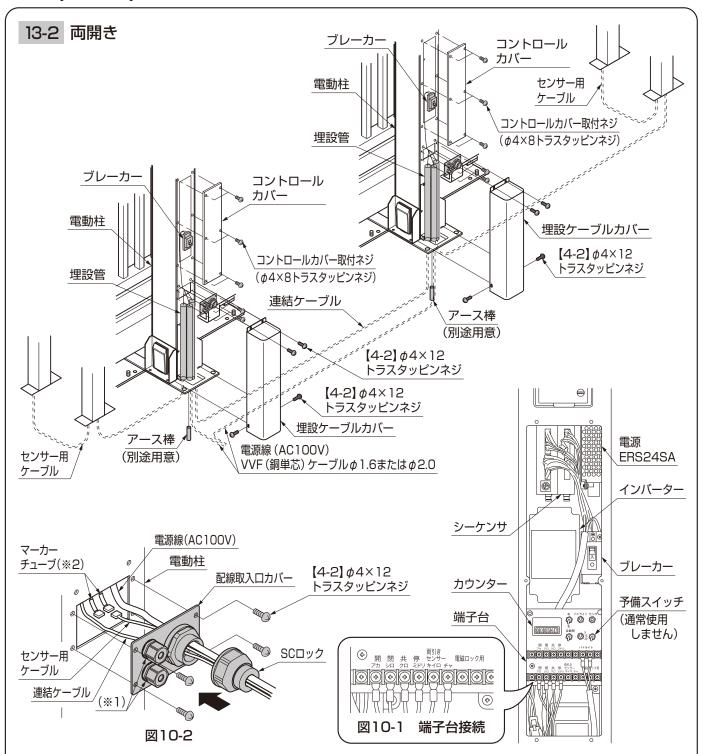


- ①コントロールカバー取付ネジ6個を緩めて取外し、コントロールカバーを取外してください。
- ②電源線 (AC100V) を柱の中に通し、ブレーカーにつないでください。
- ③各センサー柱につないでいるセンサー用ケーブルのコネクターを、SCロックの間にはさんで、電動柱から出ているコネクターに接続してください。その時、柱内にコネクターがくるようにしてください。(※コネクターは各センサー共通です)

お願い

- ●外部押しボタンスイッチ オプション を取付ける時は、端子台の色表示と配線の色を合せて接続してください。(次ページを参照してください)
- ●電磁ロック取付時には「電磁ロック用」に接続してください。
- ④第3種接地工事を行なってください。
- ⑤配線取入口カバーを【4-2】で電動柱に取付てください。
- ⑥コントロールカバーをコントロールカバー取付ネジで埋設ケーブルカバーを【4-2】で電動柱に取付けてください。

13. (つづき)

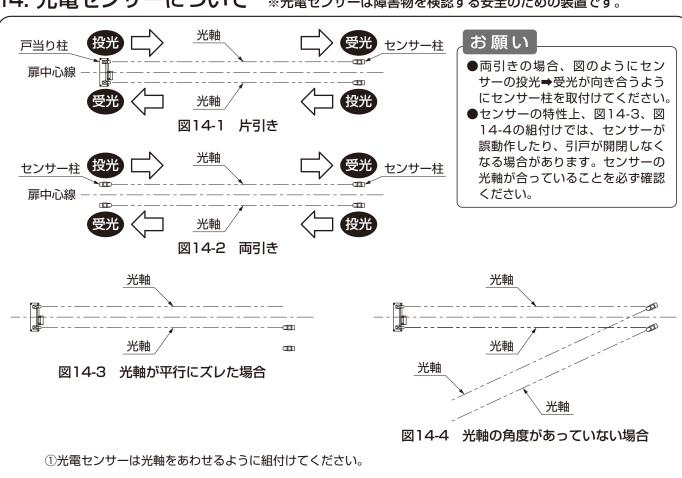


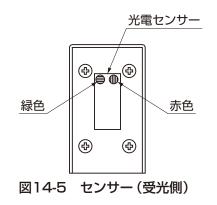
- ①コントロールカバー取付ネジ6個を緩めて取外し、コントロールカバーを取外してください。
- ②電源線 (AC100V) を柱の中に通し、ブレーカーにつないでください。
- ③図10-2を参照しマーカーチューブ (※2) の刻印を確認してセンサー柱につないでいるセンサーケーブルのコネクターを、SCロックの間にはさんで、電動柱から出ているコネクターの外観右の装置はX6、外観左の装置はX7へ接続してください。
- ④図10-1と図10-2を参照して両開き用の連結ケーブルをSCロックの間にはさんで柱の中を通し、外観右左電動柱のそれぞれの端子へケーブルの色を合せて接続してください。
- ⑤第3種接地工事を行なってください。
- ⑥配線取入口カバーを【4-2】で電動柱に取付てください。
- ②コントロールカバーをコントロールカバー取付ネジで埋設ケーブルカバーを【4-2】で電動柱に取付けてください。

お願い

- ●パトライトなどの別売品を接続する場合は、(※1) の片側に配線してください。(※1) のSCロックには最大外径 φ8mmまでの線が通せます。
- ●外部押しボタンスイッチ オプション を取付ける時は、配線と端子台の色表示を合せて接続してください。 (端子は上下2段使用できます)
- ●電磁ロック取付時には「電磁ロック用」に接続してください。
- ●センサーケーブルを接続しなかった装置側のケーブル(外観右のX7、外観左のX6)は先端のコネクターを装置内に収納しておいてください。

14. 光電センサーについて ※光電センサーは障害物を検認する安全のための装置です。

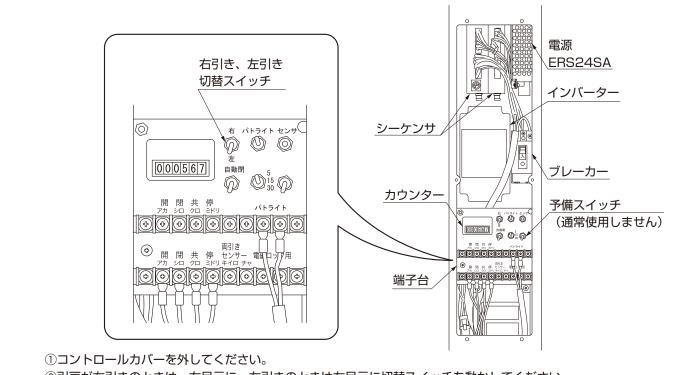




/ 補足

- ●センサー (受光側) には、緑と赤の LEDがあります。(図14-5参照)
- ●緑色のみ点灯している時… 光軸が一致していない状態
- ●緑色と赤色が点灯している時… 光軸が一致している状態
- ●センサー(投光側)は、通電時には 常に赤色のみ点灯しています。

15. 右引き、左引きの切替について

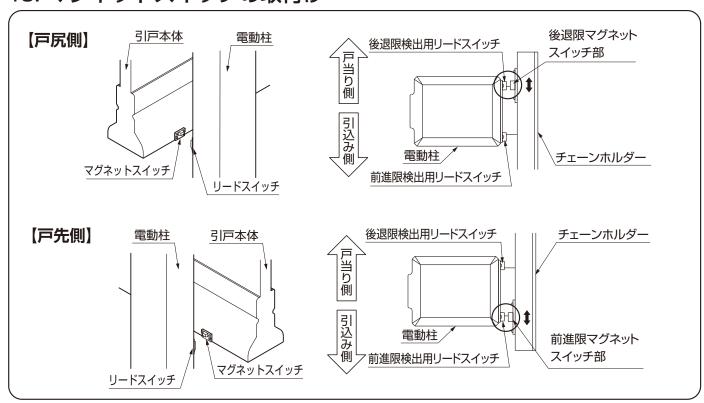


- ②引戸が右引きのときは、右吊元に、左引きのときは左吊元に切替スイッチを動かしてください。
- ③コントロールカバーを取付けてください。

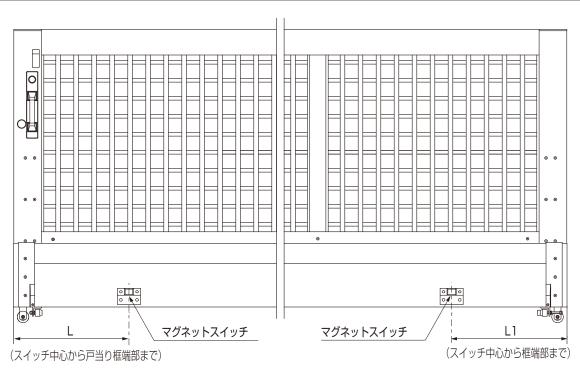
お願い

●初期設定は右引きになっています。左引きでお使いの場合は、切替スイッチを動かしてください。

16. マグネットスイッチの取付け

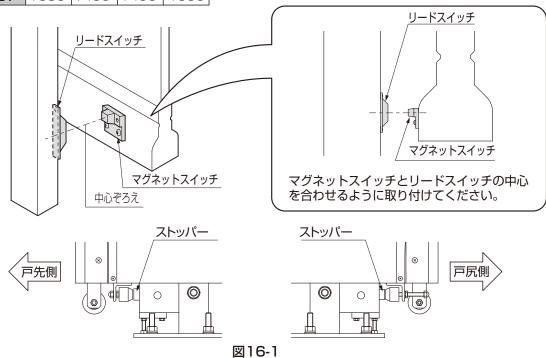


16. マグネットスイッチの取付け(つづき)



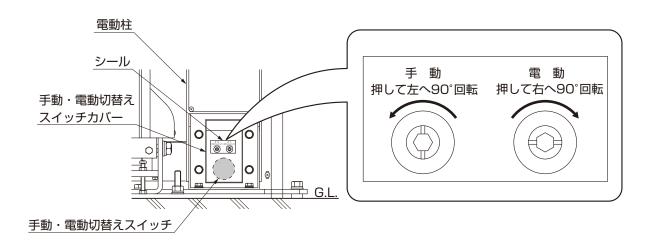
●参考値

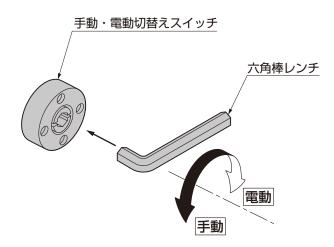
	W30	W40	W50	W60
L	1365	1465	1465	1565
L1	1356	1456	1456	1556



- ①引戸を手動に切り替え、全開閉時に落とし棒がかかるか確認してください。
- ②落とし棒で動かない状態にし、リードスイッチと合うようにマグネットスイッチを戸先・戸尻側に仮固定します。
- ③電動に切り替え、有効開口の登録を行います。開閉に問題がないことを確認し、全開閉の1m手前でスピードダウンすることを確認してください。
- ④マグネットスイッチを本固定します。
- ⑤全開閉時、戸先・戸尻側のストッパーとクッションが当たるよう調整してください。

17. 手動と電動の切替方法について



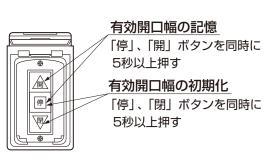


①手動・電動を切替える場合は、手動・電動切替スイッチカバーの簡易錠をコイン等で開位置 (溝が水平) まで回してカバーを開け、カバーに貼付けられたシールに従って付属の六角棒レンチで切替えてください。

② 補足

- ●電動柱は工場出荷時は手動になっています。
- ●六角レンチは蓋の裏側に取付けてあります。

18. 引戸有効開口幅の電動柱への登録





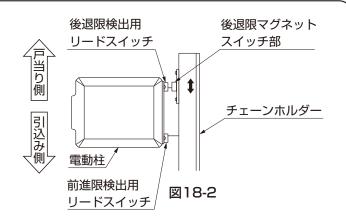


表18-1 引戸有効開口幅の電動柱への登録方法

农10-1 引户有劝用口幅0电到性、00豆碱力丛		
手順	作業内容	補足内容
1	電動・手動切換えスイッチを手動にしてください。	「17. 手動と電動の切替え方法について」参照
2	引戸を手動のまま動かし全閉状態にしてください。	
3	電動・手動切換えスイッチを電動にしてください。	「17. 手動と電動の切替え方法について」参照
4	電動柱押しボタンスイッチの「停」ボタンと「閉」ボタン を同時に5秒以上押してください。	有効開口幅の初期化 「停」ボタンと「閉」ボタンを同時に押し続けると、柱内部で"カチカチカチ"と短い連続音がします。カチカチ音が鳴り止むと、有効開口幅が初期化されます。
5	電動柱押しボタンスイッチの「開」を押し続けて、引戸を 全開状態にしてください。	記憶位置が4.の操作で初期化されていますので、ボタンから手を離すと途中で引戸が停止することがあります。全開位置に引戸が到達するまで、「開」ボタンを押し続けてください。
6	引戸が全開位置にあり、後退限マグネットスイッチが検出 リードスイッチ位置まで来ていることを確認してくださ い。(図18-2参照)	「16. マグネットスイッチの取付け」参照
7	電動柱押しボタンスイッチの「停」 ボタンと 「開」 ボタンを 同時に5秒以上押してください。	有効開口幅の記憶 「停」ボタンと「開」ボタンを同時に押し続けると、柱内部で"カチ、カチ、カチ"と長めの断続音がします。カチ、カチ音が鳴り止むと、有効開口幅が電動柱に記憶されます。
8	柱押しボタンスイッチの「開」、「閉」ボタンを押して引戸 が正常に作動することを確認してください。	

お願い

- ●有効開口幅が正常に記憶されると、引戸は各開閉限約1m手前から減速し、速度を落とした状態で開閉限で停止します。約1m手前から減速せずに引戸が開閉限まで動いてしまう場合は、手順4から操作し有効開口幅の登録をしてください。
- ●有効開口幅の記憶は施工時に1度登録することで、停電など主電源が切れた状態でも記憶しています。工場出荷時には有効開口幅10m相当の設定で出荷されています。

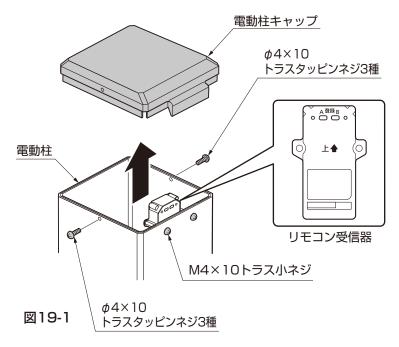
⚠注意

●有効開口幅の登録をせずに引戸を使用すると、破損の原因となります。必ず電動柱への有効開口幅の登録を行なってください。

19. リモコンについて ※リモコン送信器の実用到達距離は約30mなのでその範囲内で操作してください。

19-1 リモコン送信器の登録・登録取消し

(1) 登録・登録取消しの前に



①「φ4×10トラスタッピンネジ3種」を取 外し、電動柱キャップを電動柱から取外 してください。 (図19-1参照)

⚠注意

●登録の際、アルミ形材の切断面に注 意してください。ケガをするおそれ があります。

お願い

●取外した「φ4×10トラスタッピンネジ3種」は、後工程の登録完了後に取付けますので、無くさないように保管してください。「M4×10トラス小ネジ」を取り外さないでください。

(2) リモコン送信機・電池の挿入/交換方法について

② 補足

- ●初めて使用する場合は付属している電池を挿入してください。
- ●電池を交換するときは古い電池を取り出してください。





①薄くて平らなものを電池カバーのロックキーに挿入し、「ロック解除」の位置に回してください。



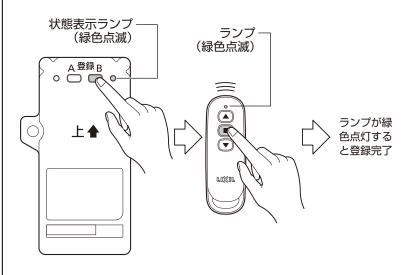
②電池カバーをしっかり押さえながら、 ロックキーを「ロック」位置に回して ください。

② 補足

※挿入/交換後、正常に機能させるために、次のことを必ずお守りください。

- ●電池の極性「+」・「-」を確認の上、正しくセットしてください。また、水分やほこりなどが入らないようにしてください。
- ●ぬれたり、汚れた手で電池をさわらないでください。電池の接触不良となります。
- ●電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしないでください。
- ●電極を曲げないでください。

(3) 登録 ※追加登録する場合も同様の方法になります。

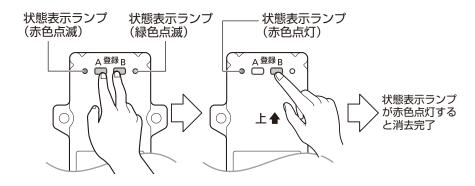


- ①リモコン受信器の状態表示ランプが緑色点滅するまで、「登録B」ボタンを約3秒間押します。
- ②リモコン送信器のランプが緑色点滅するまで、 「■」ボタンを約5秒間押します。ランプが緑 色点灯しリモコン送信器の登録が完了します。

/ 補足

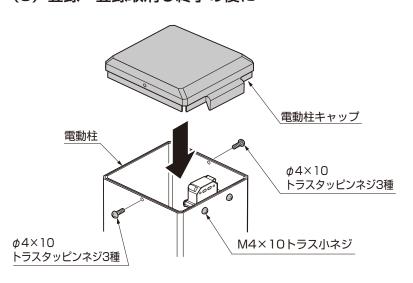
- ●2台以上登録する場合は、①と②の作業を繰り返してください。
- ●リモコン送信器は、16台まで登録可能です。 17台目は登録できません。使わなくなった リモコンを入れ替える場合は、リモコン受信 器を初期化し、再度登録してください。

(4) 登録取消し ※登録されているすべてのリモコンを消去します。



- ①状態表示ランプが緑・赤色点滅するまで、「登録A」「登録B」ボタンを同時に約10秒間押します。
- ②「登録B」ボタンを押します。状態表示ランプが約2秒間赤色点灯し、リモコン送信器の登録が消去されます。

(5) 登録・登録取消し終了の後に



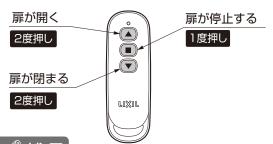
① 電 動 柱 キャップ を 電 動 柱 に、 「φ4×10トラスタッピンネジ3種」 で取付けてください。

お願い

●電動柱キャップの取付けの際に、機器接続配線をはさまないように注意してください。断線やショートにより作動不良や途中停止の原因になります。

20. 引戸開閉操作の確認

20-1 リモコン送信器での操作方法



② 補足

- ●作動途中で一時停止させるときは「■」ボタンを押してください。
- ●一時停止位置によっては作動バランスの関係上、 多少動くことがあります。
- ●安全上「■」ボタンに限り 1 回押すだけで送信します。

∅ 補足

- ●リモコン送信器の到達可能距離(目安)は見通し約30メートル以内です。
- ●「▲」または「▼」ボタンの2度押し間隔が2秒を超えると送信されません。
- ●「▲」・「▼」作動中に逆方向の操作をするときは、必ず一度「■」ボタンを押してください。

20-2 電動柱押しボタンスイッチでの操作方法

※電動柱に付いている押ボタンを押して扉を開閉してください。

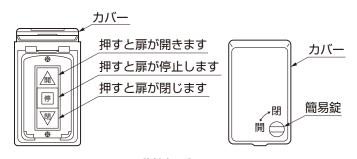


図20-2 電動柱押ボタンスイッチ

- ①簡易錠をコイン等で開位置 (溝が水平) まで回してカバーを開けてください。
- ②開ボタンスイッチを押すと扉が開きます。
- ③停ボタンスイッチを押すと扉が停止します。
- ④閉ボタンスイッチを押すと扉が閉じます。
- ⑤カバーを閉め、簡易錠をコイン等で閉位置 (溝が垂直)まで回し施錠してください。

⚠注意

●イタズラや誤操作による損害を防ぐ ために、操作時以外はカバーをロッ クしてください。

21. 施工後の点検

21-1 引戸本体の確認

- ①すべての部品の取付け後、電動柱下部のクラッチ解除レバーを再度手動にして、引戸本体がスムーズに作動する か確認してください。
- ②次にクラッチ解除レバーを電動にして引戸を作動してください。前ストッパー、後部ストッパーに引戸が当る直前に駆動モーターが切れるタイミングになるよう、マグネットスイッチを調整し直してください。
- ③調整後、再度電動で引戸を作動させ全開状態、全閉状態でクラッチ解除レバーを手動に切替えてください。スムーズにできれば調整終了です。

21-2 センサー作動の確認

(1) 光電センサー

①センサー柱内に透過型光電センサーがG.L.から約64cmの位置に組込まれていて、障害物を検出した場合引戸は 停止します。センサーの確認方法として、手などでセンサーを遮光し引戸が確実に停止するかテストを行なって ください。停止後、引き続き開閉操作を行なうと引戸は作動します。

